

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000184		
法人名	医療法人総心会		
事業所名	グループホーム長岡京 (1階)		
所在地	長岡京市開田4丁目20-21		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町村受理日	平成29年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhvu_pref_search_list_list=true&PrefCd=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1 「ひと・まち交流館 京都」 1階
訪問調査日	平成29年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本の介護を大切に、当たり前のことが当たり前で支援出来るように努力をおこなっているが、まだまだ改善と努力が必要な状態。一人ひとりが不安や混乱がある中、いかに自分らしく生き笑顔や安心した生活を送ってもらえるよう日々努力しつつ関わりを楽しみや新たな発見を見出し職員も仕事の中で楽しみややりがいを持って働ける環境を目指している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR長岡京駅と阪急長岡天神駅の中ほどに位置する地にグループホーム長岡京がある。平成15年8月に医療法人総心会が3ユニットのグループホームとして開設された。傍には、法人の母体である長岡京病院があり連携・協力体制がある。事業所は静かな住宅街の一角にあって住環境に恵まれている。介護理念にスタッフとしての「あるべき姿」を示し、入居者一人ひとりを敬い、安全に安心して日々の暮らしが続けられるような支援を目標としている。職員は、有資格者が大半を占め専門性が高く、自己評価を厳しく真摯に受け止め、サービスの質の向上に繋げようと取り組んでいる。年を重ねるに従い、重度化を避けることができなく、家族などの希望により人生最後の瞬間に立ち会っている。今年は8名の方を見送っている。医療・介護の連携体制とともに、家族などとの信頼関係の下で円滑に行われている。認知症や体力の低下予防を目的として、法人本部から作業療法士が定期的に訪れ機能訓練を行っている。入居者を主人公として支援に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人規定の理念は実践に繋げにくい文章となっており、事業所内では人として大切なことは何か、ということ等を常に考え引継ぎや職員間でケアの気づき等を共有し実践に繋げている	グループホーム長岡京のスタッフとしての「あるべき姿」を介護理念で3項目にわたり明確に表現している。日常的には「人として大事にしましょう」とミーティングで話し合っている。パンフレットにも「安心とぬくもりのある生活を・・・」と示しており、職員は日々の支援に繋がられるように努めているところである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入り回覧板にて地域の情報を取り入れている。また、近隣保育園の保護者会の活動にて園児の慰問がある	自治会に入会し回覧板で地域の情報を得ている。地域の夏祭りに参加したり、ハンドマッサージのボランティアや近在の保育園児とのふれあいの機会をもっている。今後、日常的に交流の場を広げることを課題としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や問い合わせ時等にて認知症についてや介護について助言や説明を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来る限り活かせるように努力できている	会議には、入居者家族・市の担当職員・地域包括支援センター職員・地域民生委員・自治会長と事業所職員が参加している。入居者の状況や活動状況を報告した後、出席者と意見交換を行っている。家族から「ターミナルケア」の問題や会議に家族の出席を増やす手法などの意見が出されている。市の担当者や民生委員などからもそれぞれの立場からの意見が出されている。議事録で確認した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政や地域支援包括など密に連携がとれている	会議に、市の担当職員や包括支援センターの職員が出席しているので、事業所の日常的な状況の把握をしてもらっている。行政としての意見も得て親密な協力体制ができている。地域の連絡会には出席して情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来るだけ拘束しないように対応し、止むを行う場合は拘束をなくす方向で常に考えている	基本的には「身体拘束をしないケア」に取り組んでいるが、入居者の安全確保を優先的に考え、身体拘束やむなしの場合もある。家族からの要望があったりするので、家族と職員間で話し合いを重ね身体拘束をしない支援に繋げていく方向性をもっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学びは個々に任されているが日頃から虐待にあたらないか？等の視点を忘れず行動できている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後制度の利用が増えていくことが予測されるため学ぶ機会の必要性は感じる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関しての機会は少ないが、処遇と捉えた際は面会時にご家族との情報交換は密に取れており処遇に反映できている	運営推進会議で家族からの意見を聞き取っている。日常的には、来所時に会話の中から汲み取るように努めている。入居者からは、日々の生活の中で会話や行動などから拾い上げるようにしている。家族などからは、運営に関する意見はほとんど出ず、個人的な支援に関する話が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ユニットの全体会議にて話し合う場が設けられている	運営に関する意見というより、朝夕の申し送りやユニット会議で、個別支援の方法などについて“気づき”を出し合っている。各階の入居者の心身状況のバランスを考え職員間で話し合っ解決に繋げている。ヒヤリハットが多く出ている事からも、注意深く入居者を見守っていることが理解できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休などそれぞれの事情に合わせて勤務を組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行えていると思うが、もし余裕があれば他の施設の見学や外部の研修に行く機会がもう少しあれば個々のスキルアップに繋がる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はあるが、他の職員は殆ど交流がない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとり状態が違うため方法は様々だが本人の安心を確保するための関係作りを心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を詳しく行いニーズの把握に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持った生活を送れるよう利用者がお客様でなく一人の生活者としての視点で見よう心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力をして貰いたいことは家族に相談し、職員・家族の双方でお互いに来ることを明確にし協力してもらい、工夫出来ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出準備のフォローや近隣への買い物支援はできている	自宅へ泊りがけで帰られる際には、日々の支援方法をくわしく書いて家族に渡すなどの協力をしている。近在のスーパーに買い物に行き馴染みの場所づくりをしたり、野菜や花づくりをして以前行っていたことを思い出しながら楽しんでいる。季節の行事として、花見や紅葉見物には馴染みの場所に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話を増やせるように臨機応変に職員が仲介し意識的に行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後連絡や依頼があればフォローしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	見学・面接・契約時、入居時にご家族に意向を確認や本人の様子より汲み取り検討できている	見学時や初回面談時に、本人や家族などから生活歴や心身状況・今後の生活の要望など聞き取って記録している。担当介護支援専門員や必要に応じて医療関係者からも情報を得ている。入居後は日々の生活の様子から、その人の“思い”を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思表示を頂いているご家族には行っており、特に意思表示がない場合は職員で行っている	日々の介護経過記録からモニタリングし、その結果に基づいて介護計画の見直しを行っている。計画の見直しには、介護職や作業療法士、必要に応じて医療関係者・家族などの意見も反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	比較的記録は細かく記入できている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに関しては出来るだけ支援出来るように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を一人ひとりに繋げられていないと感じる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できている	かかりつけ医の選択は、本人・家族などの希望を優先している。現在27名中25名が在宅時の主治医を選択し、それぞれの主治医の往診を受けている。職員が立ち会い双方向で情報交換を行い適切な健康管理に努めている。眼科などの通院の場合は、家族が付き添っている。希望に応じて訪問歯科の利用が出来る体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携では週に2回細かく報告。主には、主治医と連携を常にとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーの記入。退院前には地域連携室より連絡があれば答え、退院後不明なことは連携室に電話にて相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で意向を聞きたい旨は伝え、ある時期に最終の意向を聞き主治医に報告し時期が来た際に家族・主治医・職員とで必ずカンファレンスを行い情報共有の上支援している	「重度化した場合における対応に係る指針」を示している。『疾病や受傷などにおける急性期の対応』『入院となった場合の施設利用料などの取り扱いについて』『看取りについて』3項目に分けてわかりやすく家族などに説明し同意を得ている。事業所での看取りを希望される場合は、家族などや主治医・看護職・介護職など関係者が、話し合いを重ねて協力の下で実施している。今年度は8名の方を見送っている。現在1名の方の支援を行っているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の方法は個人で学ぶしかなく訓練は実施していない。AEDの訓練は以前は実施していたが定期的に行わないと忘れる人もいるので定期訓練の必要を感じる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害を想定した訓練は行っていないが火災想定訓練は年に2回以上実施している。夜間想定訓練も予定	火災訓練を2か月に1回位の割合で実施している。昼間を想定して夜間想定や地震対応訓練は現在のところ実施していない。備蓄に関しては、主な非常食など近隣の法人本部のある系列病院で保管している。	夜間想定での訓練はされていないようで、入居者の重度化などの事情はあるとは思いますが、人員体制の少ない夜間帯の有事にそなえて、職員の動き(連絡など)を訓練されることをお勧めします。できれば自然災害の訓練も検討されては如何でしょう。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々、声かけが言葉の虐待ともとれる職員がおり注意をその場でしている	日常的に、職員間で「人として大事にしよう」と話し合っており、入居者の行動などを抑制するような声掛けや言葉遣いなどに留意している。研修としては、現在のところ時間的に厳しいが、業務の中で話し合っってプライドやプライバシーを損ねないような支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己発信しにくい・出来ない入居者には職員都合になっているのでは・・・と振り返り本人の思いを汲み取るよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他ユニットを助けていることもあり、生活支援が更に多忙になり、生活を滞りなく送ってもらうことで精一杯で一人ひとりの希望に沿った支援が出来ていない日もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援するように努めているが不十分な点もあり改善努力が必要		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ実施できている	食事は、職員が中心となって手作りしている。行事食では、松花弁当やサンドイッチなどで目先を変えて楽しい食事時間を設けている。おやつ作りにも、変化を持たせて、白玉ぜんざいやプリン・ゼリーなど喜ばれている。お誕生日ケーキはスポンジ台のみ購入してトッピングはみんなで飾り付けしている。園芸委員が中心となって、野菜作りをしており、収穫できたなすびや胡瓜・ブロッコリーなど食卓にのせて楽しんでいる。さつまいもはスイートポテトにしてみんなで賞味している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配慮できている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・昼・臥床前・就寝前に実践しているが歯磨きを認識できず恐怖心から抵抗される方等にはしっかりと行えていない		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎月のフロア会議でパットの使用の再検討が出来ている。できるだけトイレで排泄することも理解し動けている	寝たきりの方以外はトイレでの排泄に向けて支援している。排泄パターンを個別に記録し、随時声掛けや誘導している。その結果、紙パンツから布パンツとパットの併用に変わった入居者の事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	やや薬に頼り気味ではあるが水分を多めに摂取などを心がけ実践している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理に入浴はしてもらわず、気分よく入浴をしてもらっている。時間は往診や行事等で職員の都合になってしまっている日もある	行事や往診の時間などで多少入浴時間が変わることがあるが、入居者の体調や気分なども考慮して入浴を決めている。希望によって同性介助を心掛けているが必ずしも希望に添えない場合もある。季節によるゆず湯や菖蒲湯を楽しんで貰ったり、入浴剤も使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠の様子を見ながら臥床時間を設けたり、夜間の睡眠を考慮するなど工夫できている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の目的でどのような副作用があるかまでは、十分に理解しきれていない部分もあるが、症状の変化の確認は行えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大きなイベントは行えなくても、日常会話の中に本人が好きだった事柄などの話を盛り込みコミュニケーションをとったり、レクや体操などの集団活動を通して支援できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への買い物支援は行えている。外出行事や日光浴・外気浴など本人の体調や希望に沿って支援している	近隣に大型スーパーがあり、散歩を兼ねて買い物に出かけている。日常的ではないが、家族などとの外出の機会もある。西向日噴水公園での花見や西山体育館の通称しゃぶしゃぶ池で紅葉見物をして季節の移ろいを楽しんでいる。また、事業所内には、緑が映える広い中庭があり、花を眺めたり、お茶を飲みながら日光浴や外気浴を楽しむ機会がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自己管理することで安心出来る方は個人管理を小額ではあるがしてもらっている。買い物支援時は支払い等してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特別に支援はしていないが、かけたい希望時やかかってきた際は取次ぎをおこなっている。携帯電話所持2名いるが使用されてはいない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除機での清掃、棚などの拭き掃除やオムツ類は目に触れない場所に収納している。季節の花を花壇から摘み活けたり各月の行事の壁面構成などで季節感は配慮できている。	玄関は、落ち着いた佇まいの雰囲気があり、訪れた人をやさしく迎え入れている感じがある。入居者が集うリビングは広く明るい。華美な飾り物はなく入居者の写真や習字の作品が貼られている。カウンターには、入居者と職員が協働して活けた季節の花が人々の心を癒すように置かれていた。隣接する厨房からは、煮炊きの匂いが漂い不快感を招く臭気は全く感じられない。入居者は、それぞれお気に入りの場所で寛いでいる姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士やなじみの関係を尊重した座席の配置等行えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物は危険物(針・ナイフ・火気)以外は制限をしていない。慣れ親しんだ家具を活かしている	居室は、部屋の住民が持参した筆筒など家具類を使いやすいように配置しており、家族などの写真や思い出の飾り物で「その人らしさ」が見えてくる。そこには、一人ひとりが「落ち着ける自分の居場所」があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が解りづらい時は表示をしたり、その人にあった工夫を行っている		